

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

公開実用 昭和60— 27796

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60-27796

⑬ Int.CI.*

A 47 K 10/36
B 65 H 16/06
75/02
75/32

識別記号

厅内整理番号

6654-2D
8310-3F
7030-3F
7030-3F

⑭ 公開 昭和60年(1985)2月25日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ロールペーパーホルダー

⑯ 実 頼 昭58-120577

⑰ 出 頼 昭58(1983)8月1日

⑱ 考 案 者 大 堂 満 枚方市南船橋1-5-40

⑲ 出 願 人 大 堂 満 枚方市南船橋1-5-40

⑳ 代 理 人 弁理士 内田 敏彦

明細書

1 考案の名称

ロールペーパーホルダー

2 実用新案登録請求の範囲

1. 側方挟持部が両側端部に一体形成されて平面視形状がコ字状になされた壁面装着用基体と、前縁に紙切れ刃が付設され前記基体に開閉可能に軸支された覆蓋刃とからなるロールペーパーホルダーにおいて、支承されるロールペーパーの幅よりも僅かに広い間隔をもつて対設された前記両側方挟持部の突端内側にはロールペーパーの中空芯内に挿嵌される支承突起が設けられており、少なくとも一方の側方挟持部は前記中空芯内径よりも細くなされていると共にその平面視形状が前記突端内側部よりも外方へ脹らむようになされ且つ該突端内側部には支承されたロールペーパーの脱落防止用係止部が設けられていることを特徴とするロールペーパーホルダー。

3 考案の詳細を説明

本考案は、トイレットペーパー等のロールペー

(1)

739

実開60-27796



バー用ホルダーに関する。

従来、トイレットペーパー用等のロールペーパー ホルダーはロールペーパー用支軸を有しているため、ロールペーパーの交換時は、上記ホルダーから支軸を脱嵌して使用済の中空芯を抜き取り、改めて新品のロールペーパーに前記支軸を挿入後、これをホルダーに嵌着させるという面倒な手間がその都度必要であつた。また、上記の如きホルダーには、支軸の縮退構造や、該支軸とホルダーとの嵌合構造等、複雑な機構が採られており、製作コストが高価になるという欠点を有していた。

本考案は、上記の如き事情に鑑みてなされたものであつて、ロールペーパーの交換が簡単な操作によつてでき、しかも安価に製作できるロールペーパー ホルダー（以下、本案ホルダーといふ）を提供することを目的とする。

以下本考案を、その実施例を示す図面に基づいて説明すると次のとおりである。

第1図は本考案の実施例を示す斜視図である。同図において本案ホルダーは、適宜の金属板よりな



り、基体1と覆蓋刃6とから構成されている。基体1は壁面装着用の基部2と、該基部2の両側端部から一体的に突出形成された側方挟持部3及び3aとからなり、これを平面視すれば、コの字状になつてゐる。該両側方挟持部3と3aの対向する突端内側間の距離dは、ロールペーパーの幅よりも僅かに広くなされており、該突端内側には、支承突起4と4aとが夫々設けられている。支承突起4, 4aはロールペーパーの中空芯内に挿嵌されてロールペーパーを支承するものであり、前記中空芯内周面に沿つた形状の上縁部を有している。覆蓋刃6は、前縁にペーパー切断用の紙切刃6aが付設されており、両側方挟持部3及び3aに開閉可能に軸支されている（図面では、覆蓋刃6が上方へ回動されたものを示す）。

次に本案ホルダーの要旨構造とするところを説明する。

第1図の右方に示す側方挟持部3aは、ロールペーパーの中空芯内径よりも細い。そして、該側方挟持部3aは、前記突端内側部よりも外方へ脹ら



むように折曲して形成されており、この部分を平面視すればくの字状になつてゐる。また、側方挾持部3aと、該側方挾持部3aの突端内側に設けられた支承突起4aとの接続部には、上方へ突出する係止部5が設けられている。そして更に基体1は、基部2を基準として両側方挾持部3, 3a、支承突起4, 4a及び係止部5が夫々折曲されて形成されており、これを展開すると第2図に示すようになる。すなわち、本案ホルダーは、基体1と覆蓋刃6との2部品接合によつてなつてゐるものである。尚、第2図中7は、本案ホルダーの壁面装着用ビス穴を示し、8は覆蓋刃6の取付用穴である。また、前記係止部5は、ロールペーパーを支承したときの脱落を防止するものであり、支承突起4a下端からの高さは、ロールペーパーの中空芯内径より小さいものとする。

第3図は、覆蓋刃6を省略して示す本案ホルダーの平面図であつて、上記の如き本案ホルダーにロールペーパーを装填する順序を示す。

第3図(1)において、まず新品のロールペーパー9

の中空芯を矢符に示すように支承突起 4 a 及び側方挟持部 3 a に挿入する。次に同図(回)に示すように、矢符の如くロールペーパー 9 を回動させて軸体壁面 10 と平行にする。しかる後、同図(回)に示す如く、前記支承突起 4 a の接続部に設けられた係止部 5 が、ロールペーパー 9 の中空芯内より露出するまで平行移動させ、同時に中空芯の他端側開口部に支承突起 4 を挿入する。そして該係止部 5 がロールペーパー 9 の側面に当接するよう、ロールペーパー 9 を両支承突起 4 及び 4 a 上に載せる。このようにして新品ロールペーパーの装填は完了する。しかし、上記に示すロールペーパー 9 の装填操作は、一操作ごとに分説したために、操作工程が多く感じられるが、実際に行なう操作は、簡単な一操作であることはいうまでもない。尚、使用後の中空芯を取り除くには、上記操作の逆手順を行なえばよいものである。このように、本案ホルダーに装填されたロールペーパー 9 は、その巻き出し時において係止部 5 と、該係止部 5 が設けられていない側方挟持部 3 の内面 3 b とに



よつて、中空芯の側面を挟持状に保持されて回動するため脱落することはない。

なお、本実施例においては、一方側の側方挟持部3_aが、くの字状に折曲されたものを示したが、両側方挟持部3及び3_aが共に折曲形成されたものでもよく、その折曲形状も、平面視した形状がコの字状又は半円状等であつてよい。また係止部5も、第4図に示すような垂直段状のものであつてよいし、また同図の破線で示すような傾斜段状に形成してもよい。また、前記実施例では金属製板材より形成されたものを示したが、本案ホルダーは材料面で全く拘束されるものではなく、合成樹脂、木材等任意な材料で形成することが可能である。そのため、例えば合成樹脂で形成する場合は、支承突起4、4_a及び係止部5の形状も任意形状とすることができます。このように構成及び形状は実施の態様に応じて適宜変更可能なものである。

以上の説明で明らかのように、本考案に係るロールペーパー ホルダーによれば、ロールペーパー

の装填及び交換が簡単な一操作によつて可能であり、しかも部品点数は最少限度のものであるから、製造及び組み立てに要する手間が軽減し、製品の定価も安価になる等、製造的、機能的、価格的に優れたものであるといえる。

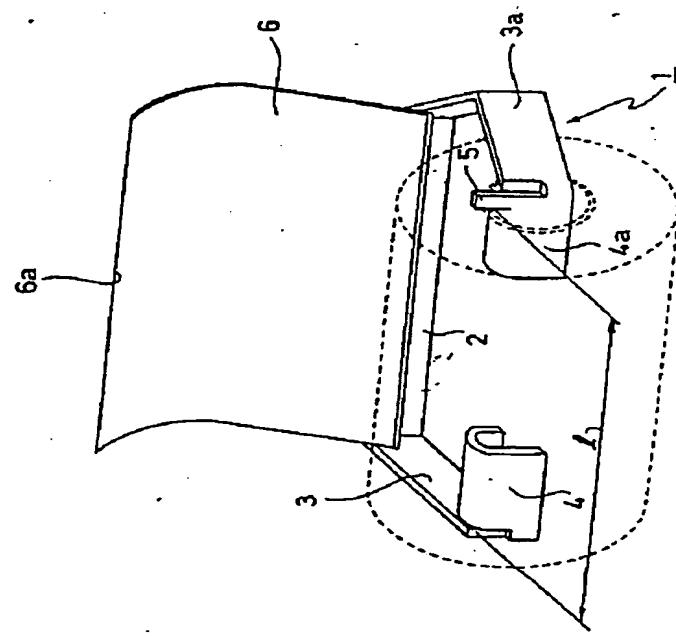
4 図面の簡単な説明

図面は、本考案に係るロールペーパーホルダーの実施例を示すものであつて、第1図は斜視図、第2図は第1図における本案ホルダーの基体を開して示す正面図、第3図(イ)、(ロ)、(ハ)は本案ホルダーにロールペーパーを装填する手順を示す機蓋刃を省略した平面図、第4図は係止部の別態様を示す斜視図である。

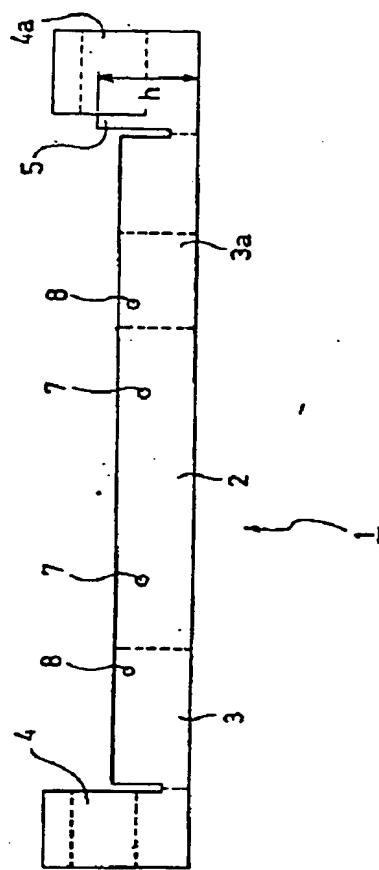
3，3a…側方挾持部 1…基体 6a…紙切刃
6…機蓋刃 4，4a…支承突起 5…係止部
9…ロールペーパー

实用新案登録出願人 大 堂 滉
代 委 人 井 塙 内 田 敏 彦

第1図

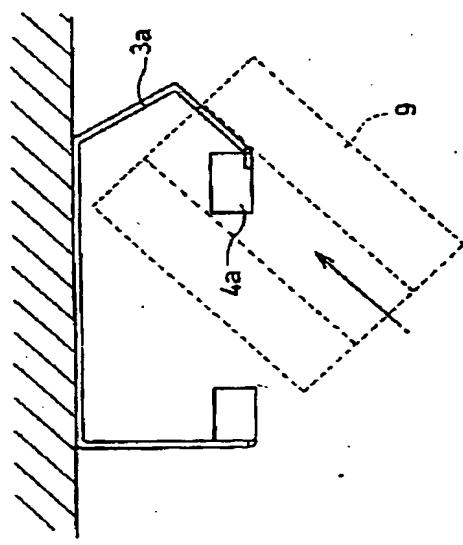


第2図

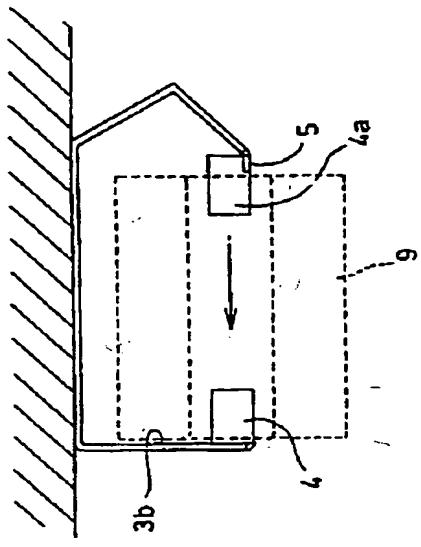


実開60-27796
実用新案登録出願人 大量 滅
出願代理人 弁理士 内田敏彦
746

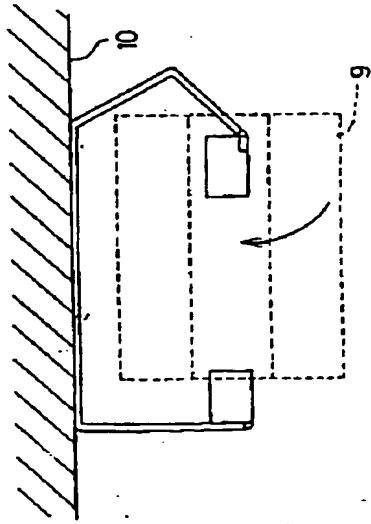
第3図 (ア)



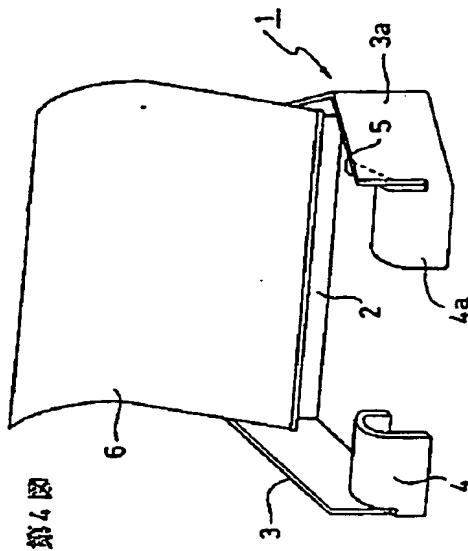
第3図 (イ)



(ア)



第4図



747

実用新案登録出願人 大堂 滅

実用新案代理人 フジタ 内田敬彦